
はじめに

小山紳一郎 皆さん、こんにちは。東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターの協働実践研究「山西・小山班」として「自治体および国際交流協会職員に求められるコーディネーターとしての専門性——現場の実践から——」の全国フォーラム分科会を始めます。本日の司会・進行を務める横浜市にある「かながわ国際交流財団」の小山紳一郎と申します。

この研究班は、「山西・小山班」というチーム名になっていて、大きく2つの柱の研究テーマを持っています。ひとつは、国際交流協会などにおけるコーディネーターの専門性研究で、こちらは私と同様、特任研究員で早稲田大学文学学術院の山西優二教授が研究のリーダーとなっています。もうひとつは、多文化ソーシャルワーカーの養成プログラムの開発ということで、こちらは主として私、小山が担当しています。

この研究は、2007年度から2年間の予定で、今回は、先行研究調査とヒアリング調査の中間報告という形になります。08年度は、場合によってはヒアリングも含めて、プログラムの中身や専門性についてアカデミックな側面と実践的な両方の視点から研究を深めて、最終的には小論文のようなものにしていく計画があります。多文化ソーシャルワーカーの方は、神奈川県で07年度の後半から08年度にかけて、委託研究というような形で私が所属している財団でこれからプログラムを作る計画があります。

今日の流れを最初にお話しします。第1部として先行研究の概要について当研



小山紳一郎

究班サブコーディネーターの新居みどりが報告します。その後第2部のパネルディスカッションに入ります。パネリストは、前群馬県多文化共生支援室長の山口和美さん、財団法人岩手県国際交流協会主査、宮順子さん、財団法人金沢国際交流財団多文化共生プログラムオフィサー、阿部一郎さんの3方をお願いしています。コメンテーターは、特任研究員の山西優二さんです。パネルでは、3人に約15分間、活動の概要説明をしていただき、その後事実確認に限定した質疑の時間を取ります。自治体および国際交流協会の職員に求められるコーディネーターとしての専門性について、各パネリストから5分程度コメントをいただいて、その後フロアの皆さんとディスカッションをしていきます。では、新居の報告から始めます。

